

## コロンビア月例報告（9月分）

### 経済情勢

2015年10月  
在コロンビア日本国大使館  
E-mail: info@ba.mofa.go.jp

#### I 概要

- 11日、日・コロンビア投資協定が発効した。
- 31日から9月4日までの間、東京にて日・コロンビア EPA 交渉第13回会合が開催された。ガンボア首席交渉官は、原産地規則及びマーケットアクセス（物品）の2分野で交渉の進展があった旨発表した。
- 10日、DANE（国家統計庁）は、2015年第2四半期の実質 GDP 成長率が前年同期比+3.0%であった旨発表した。
- 25日、中銀は2014年8月から維持してきた政策金利を0.25%引き上げて、4.75%とした。
- 憲法裁判所の大法廷において、8名の裁判官（残り1名は欠席）が対韓国 FTA 法案について投票を行ったところ、賛成及び反対が同票であった。同裁判所は、外部の弁護士を共同審理判定人（Conjuez）に任命して、同判定人が最終的な判断を下すこととなる。

#### II 主な出来事

##### <国内情勢>

##### （1）実質 GDP 成長率（10日、プレスリリース）

10日、DANE（国家統計庁）は、2015年第2四半期の実質 GDP 成長率が前年同期比+3.0%であった旨発表した。産業別にみると、前期に落ち込んだ建設業が再び高い成長率（+8.7%）を達成して、第2四半期の成長率を牽引した。また、鉱業が前期のマイナス成長から一転して+4.2%と大きく回復した。なお、製造業は2014年第2四半期から5期連続してマイナス成長となった。

##### （2）経済見通し（1日及び11日、当地紙報道）

カルデナス財務・公債相は、2015年第2四半期の実質 GDP 成長率の発表を受けて、2015年通年のコロンビア経済成長率目標である3.5%に近づきつつある旨述べた。

Fedesarrollo（シンクタンク）は、公共支出の削減、世界経済の脆弱性、中国経済の成長鈍化、原油価格の低迷等の影響から、2015年通年のコロンビア経済成長率（予想）を3.5%から3.0%に引き下げた。

##### （3）政策金利（25日、中銀プレスリリース）

25日、中銀は8月の消費者物価上昇率、コロンビア・ペソのドルに対する減価等を受けて、2014年8月から維持してきた政策金利を0.25%引き上げて、4.75%とした。

##### （4）ベネズエラ国境閉鎖に伴う緊急経済支援（10日、当地紙報道）

9日、アベジョ運輸相はベネズエラ国境が閉鎖されている間、石炭輸送に供される鉄道の24時間運行を可能にする政令第1802号を発出したこと、並びにククタ市をはじめとするベネズエラ国境周辺地域で購入・消費される商品に係る付加価値税を免除する旨発表した。

##### <対外経済関係>

##### （1）対日 EPA 関連（4日、5日及び6日、プレスリリース及び当地紙報道）

31日から9月4日までの間、東京にて日・コロンビア EPA 交渉第13回会合が開催された。

ガンボア首席交渉官は、原産地規則及びマーケットアクセス（物品）の2分野で交渉の進展があった。特に原産地規則分野では、農産品、農業加工品、原油、原油派製品、肥料、ガラス、機材、金属製品等に関する要件について進展した旨発表した。

（2）日・コロンビア投資協定関連（14日、当地紙報道）

11日、日・コロンビア投資協定が発効した。同協定の主な目的は、二国間の投資に対して国際的基準に則した法的な透明性を与えることである。同協定は投資家が得た利益を自由に移動させることを可能にするとともに、無補償による収用を禁止している。また、投資家と政府の間の問題を国際調停等の方法を用いて解決できることを規定している。

（3）対韓国FTA関連（8日、当地紙報道）

憲法裁判所の大法廷において、8名の裁判官（残り1名は欠席）が対韓国FTA法案について投票を行った。投票結果は、賛成4票、反対4票と同票であった。これを解決するため、同裁判所は、外部の弁護士であるセサル・ロドリゲス・ガラティボ氏を共同審理判定人（Conjuez）に任命して、同氏が最終的な判断を下すこととなる。

（4）対米関連（18日、当地紙報道）

デビッド・ソーン（David Thorne）米国商業会議所会頭は、米国・コロンビアFTA協定締結から3年間で、対コロンビア輸出額が46%増加した。また、コロンビアは鉱山・エネルギー以外の対米輸出額が11%増加するとともに、対米輸出企業が2,000社を超えて、そのうち85%が中小企業である旨発表した。

（5）対スペイン関連（21日、当地紙報道）

コロンビア商工観光省は、Jose Luis Bonet スペイン商業会議所会頭が率いて30名のスペイン企業家による経済ミッションがコロンビアを訪問する旨発表した。経済ミッションの目的は、農業、インフラ、銀行、持続可能なエネルギー、バイオテクノロジー、観光・サービス及び情報通信分野等に対する投資の可能性を探るものである。

（6）対エクアドル関連（3日、当地紙報道）

ラファエル・コレア・エクアドル大統領は、原油価格の低迷及びコロンビア・ペソのドルに対する減価を鑑み、コロンビアで商品を購入するのではなく、エクアドル経済に貢献するために国内での購入を促す声明を発表した。

（7）対イスラエル関連（10日、当地紙報道）

Marco Sermoneta 駐コロンビア・イスラエル新大使は、イスラエル・コロンビアFTA法案を国会への上程及び審議を促進することが優先事項である旨述べた。

（8）対ベネズエラ関連（1日、当地紙報道）

コロンビア貨物輸送業界は、ベネズエラ国境閉鎖後の12日間で損失が500万ドルに上った旨明らかにした。

<経済指標>

（1）経済活動全般

（ア）実質工業生産指数（DANE発表）

7月の実質工業生産指数（加工コーヒー豆を除く）は前年同月比+0.3%であった。

（イ）実質小売売上高指数（DANE発表）

7月の実質小売売上高指数は前年同月比+4.5%であった。

（ウ）消費者信頼感指数（Fedesarrollo発表）

8月の消費者信頼感指数（ICC）は、▲0.4%と前月（2.6%）を3.0ポイント下回り、前年同月比では20.9ポイント下回った。なお、2009年4月以来のマイナスとなった。

（2）産業動向

（ア）原油生産量（鉱山・エネルギー省発表）

8月の石油生産量は日量96.6万バレルであり、前年同月比▲3.3%となった。

(イ) コーヒー

(i) 生産 (コーヒー生産者連盟 (FNC) 発表)

FNC 加盟コーヒー生産者による 8 月のコーヒー生産量は 126.4 万袋 (1 袋=60kg) となり、前年同月比で 9.8%増加した。

(ii) 価格 (国際コーヒー機関発表)

9 月のコロンビア産マイルド・アラビック・コーヒーの価格は月平均 1 ポンド=1.36 ドル (前月は同 1.47 ドル, 前年同月は同 2.07 ドル) であった。

(3) 物価・雇用 (DANE 発表)

(ア) 物価

8 月の消費者物価上昇率は+4.74% (前年同月比, 以下同), 生産者物価上昇率は 2.01% であった。

(イ) 雇用

8 月の全国平均失業率は 9.1%と, 前年同月の 8.9%より 0.2 ポイント悪化した。また, 主要 13 都市の平均失業率は 9.9%と, 前年同月の 9.4%より 0.4 ポイント悪化した。

(4) 貿易収支 (DANE 発表)

7 月の貿易収支 (FOB) は, 17.58 億ドルの赤字であった。輸出 (FOB) 全体では, 前年同月比▲40.5%の 32.02 億ドル, 輸入 (CIF) 全体では, 前年同月比▲18.3%の 49.68 億ドルとなった。